令和７年度

運営に関する計画

R07.11.12　含中間評価

大阪市立難波元町小学校

（様式１）

大阪市立難波元町小学校　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１　学校運営の中期目標

現状と課題

○ 令和４年度末の保護者アンケートで「学校へ行くのを楽しみにしている」の肯定的な回答が９５％であった。令和３年度の８９％より６ポイント増加した。理由として、コロナ禍の中での教育活動も３年目を迎え、様々な工夫をしながら学習のみならず行事も実現できたことが考えられる。保護者へのアンケート結果にも「コロナ禍にあってもできるだけ行事を減らさない工夫が感じられる」といった声がよせられている。このような保護者へのアンケート結果に対して、児童へのアンケート結果は次の通りであった。

令和４年度末の児童アンケートで「学校は楽しいですか」の肯定的な回答が９４％で、令和３年度が９８％からすると４ポイント減少した。

コロナ禍の中で児童の安全・安心を担保して教育活動を推進していることを引き続き発信していく。

○「きまり・規則を守っている」と回答した児童は９２％で令和３年度から２ポイント増加した。学校にあるいろいろなきまりを守ることが自分の命や友達の命を守ることにつながるという指導を全校朝会や日々の学級指導で繰り返し指導してきたことが数字に表れた。引き続き、生活指導に関する取り組みを継続し、規範意識をさらに高めていく必要がある。また、きまりがなぜあるのか、どうして守らなければならないのかといった指導を継続していく。

○令和４年度は研究教科を算数とし、研究主題「わかる喜び　学ぶ楽しさ」として、授業研究を推進した。その結果、学力経年調査の標準化得点は令和３年度、算数１０２．７であったが令和４年度は算数１０２．４であった。１０２を維持したというのは大きな成果であると考える。各教員の日々の授業改善と児童理解による良好な人間関係の構築。加えて、脳トレで児童の学びに向かう姿勢作りに取り組んだ事があげられる。

◎脳トレの推進

令和２年度、コロナ禍の影響の中で脳トレを開始。日々の百ます計算と漢字先取り学習をすることで児童の自尊感情を育むことをねらいとした。児童の脳を活性化し、学びに向かう姿勢を形成するために教職員一丸となって「脳トレ」を全学年で実践した。

令和４年度は「音読・計算・漢字」に取り組んだ。計算は３分間の百ます計算。どの計算も、昨日の自分の記録をクリアすることを目標としながら、小学校を卒業する間際までには、どの計算も２分を切ることを目標とした。たし算、ひき算、かけ算、わり算Ｂ(余り無し)、わり算Ａ(余り有り)に取り組んだ。引き続き脳トレを推進し、児童の学びに向かう姿勢を形成していく。

【百ます計算で２分を切った児童の割合】

〔百ます計算　種類〕	年度始め　　年度終わり
たし算	42%　⇒　58%
ひき算	47.7%　⇒　52.3%
かけ算	26.6%　⇒　73.4%
わり算 B(余り無し)	23.4%　⇒　76.6%
わり算 A(余り有り)	0%　⇒　16.7%

【漢字検定試験の合格率】

○3 年以上の児童が当該学年に相当する漢字検定試験を受験した。

令和４年度の合格率は 86.2%であった。前年度の合格率 78.2%と比べると 8 ポイント向上した。

※百ます計算や漢字先取り学習、音読に取り組む脳トレの活動は児童のやればできるという自己肯定感を高めるものになっている。令和４年度は朝の時間帯に位置付けて推進してきた。

○学力向上推進事業

昨年度に続いて学力推進事業をうけ、月 2 回程度教育アドバイザーを派遣していただいた。

アドバイザーには、次の３点指導していただいた。

① 若手教員の算数授業の参観並びに指導講話

② 校内算数全体授業での指導講評

③ メンター研修での指導助言

指導教諭の指導を通して、本校の算数科の授業スタイルが確立することができた。

○「話し合う活動を通じて考えを深めたり広げたりしている」児童は８８％であった。前年度の８２％よりも６ポイント増加している。日々のいろいろな学習で話し合う活動を取り入れた事が増加した理由であろうと考える。引き続き、あらゆる学習の中で話し合いなどの言語活動を意識して取り入れていきたい。

○「一輪車や遊具を使って体を動かすことは楽しいですか」という設問に対して７１％がとても楽しい、２５％が楽しいと回答した。コロナ禍の中でも児童が運動に興味を持ち楽しいと感じる肯定的な回答が９６％になったことは前向きに評価できると考える。今後も児童の興味関心を高めながら運動することの楽しさや喜びを体験させていきたい。

○児童の学習端末は、毎朝、起動し、心の天気を入力して一日が始まるということを基本ルーティーンとして全児童が PC 操作を簡単に感じるようにさせていく。そして、日々の学習でも活用を図っていく。「学校でパソコンやタブレットを使っていますか」の問いに７２％の児童が「ほぼ毎日使っている」と回答をしている。今後はさらに効果的な場面で活用を推進したい。

○2020 年の学習指導要領の改訂後、コロナ禍もあり、教員の負担感は増す一方である。その中で、行事精選や活動の見直しを行い教員の教育環境が過度にならないようにしているところである。これまでも、ゆとりの日を設定していたが、今年度は週１回のゆとりの日を設定した。今後も確実な運用を図る。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。

・年度末の校内調査において不登校児童の在籍が 0 となるようにする。

・「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 50%以上にする。

・小学校学力経年調査における国語および算数の標準偏差値を 102 以上を維持する。

・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

・「日々の授業の中で学習者用端末を利用して学習している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 95%以上にする。

・教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合(時間外勤務時間が 45 時間以内、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下)を 60%以上にする。

2　中期目標の達成に向けた年度目標

【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】

・年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９３％以上にする。

・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を９２％以上にする。

・年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を９２％以上にする。

学校の年度目標

① 令和７年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】

・年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を５６％以上にする。

・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を７０％以上にする。

学校の年度目標

① 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比6割以下の児童を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１人以上減少させる。

② 漢字検定（3年生以上）の合格率を80パーセント以上にする。

【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】

・授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の５０％以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く〕

・第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準１（時間外勤務時間が月 45 時間以内、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下）を満たす教職員の割合を５０％以上にする。

３　本年度の自己評価結果の総括

大阪市立難波元町小学校　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 ・年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９３％以上にする。 ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を９２％以上にする。 ・年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を９２％以上にする。 学校の年度目標 ① 令和７年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 児童理解を深め、いじめの未然防止と早期発見、早期対応をすすめる。 指標： いじめについて考える日、いのちについて考える日、毎月の児童理解研修会を実施し、年度末の児童アンケートで「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目で、最も肯定的な「思う」と回答する児童を９２％以上にする。	A
取組内容②【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 きまりを守ることによって学校生活を楽しむことができたり、安全に活動をすすめることができたりするという場面を数多く経験させる。 指標： 今年度末の児童アンケートで「学校に行くのは楽しい」と回答する児童を９３％以上にする。 今年度末の児童アンケートで「学校の決まりを守っている」と回答する児童を９３％以上にする。	B
取組内容③【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 不登校傾向のある児童の早期発見、早期対応をすすめる。 指標： 児童理解研修会、スクリーニングシート、心の天気の活用を通して、新たに不登校になる児童の割合を前年度より改善させる。	B

取組内容④【基本的な方向２　豊かな心の育成】 たてわり班活動や各学校行事を通して、児童の自己肯定感を高める。 指標： たてわり遊び、たてわり清掃、オリエンテーリング、各学校行事を通して、年度末の児童アンケートで「自分には良いところがあると思う」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を９２％以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容①について】

「児童理解研修会」を行い、各学級の気になる児童について全教職員で共通理解している。また、些細な事象についても管理職に報告し、対応を行っている。「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」というアンケートでは、最も肯定的な意見９３％、全体の肯定的な意見は９９％になっている。

【取組内容②について】

きまりを守ることによって学校生活を楽しむこと、安全に活動をすすめることができるように学校全体、学級で「きまりを守る」ことについて指導している。「学校に行くのは楽しい」と肯定的な意見が９１％になっている。「生活見直し週間」、代表委員会による「学校をよりよくしていこう」をテーマに様々な取り組みを設けて、意識付けを行っている。「学校のきまりを守っている」のアンケートでは肯定的な意見が９１％と昨年度の同じ時期よりも増加傾向にはあるが、守れていないところもあるので、継続的に指導を行っていく。

【取組内容③について】

児童理解研修会などで情報共有を行い、不登校傾向にある児童の状況を教職員で把握している。学校だけでなく、スクリーニング会議などでも登校できるように支援できる体制をとるとともに家庭とも連絡を取り、改善できるように取り組んでいる。昨年度から引き続いて不登校傾向のある児童は変わらない。

【取組内容④について】

高学年の児童を中心にたてわり遊び、たてわり清掃などに取り組んでいる。自己肯定感も少しずつではあるが高められていると思う。6 年生だけでなく、5 年生もリーダーの自覚が少しずつでてきている。また、「自分には良いところがあると思う」の項目で、肯定的な意見が９１％になっている。

次年度への改善点

大阪市立難波元町小学校　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】 ・年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を５６％以上にする。 ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を７０％以上にする。 学校の年度目標 ① 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比6割以下の児童を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１人以上減少させる。 ② 漢字検定（3年生以上）の合格率を80パーセント以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 すべての教科・領域において話し合い活動を深めるため、自分の思いや考えを書いたり、交流したりする学習を取り入れる。	B
指標： 今年度の児童アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を、令和６年度（５５．３％）より増加させる。	
取組内容②【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 全学年での研究授業・公開授業、脳トレを通して、計算力や漢字能力などの基礎学力を高める指導法のあり方を模索する。	
指標： 今年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率６割以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。	
取組内容③【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 C-NET、日本語指導ｻﾎﾟｰﾀｰと連携した授業を進めるとともに、ﾃﾞｼﾞﾀﾙ教科書の活用を図る。	B
指標： 今年度末の児童アンケートで「外国語(英語)の学習は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を82％以上にする。 「学校に行くのは楽しいですか」に対して肯定的な回答をする日本語の指導が必要な児童の割合を60％以上にする。	

取組内容④【基本的な方向５　健やかな体の育成】 体育科学習や学校行事などを通して、体を動かすことの楽しさを経験させる。また、宿泊学習で多様な体験を通して健やかな心と体を育成する。 指標： 今年度末の児童アンケートで「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を７０％以上にする。	C
取組内容⑤【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 漢字の定着を図るために脳トレに取り組む。 **指標**： 漢字検定（3年生以上）合格率を80パーセント以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容①について】

国語科の学習を中心に自分の考えを書く活動、それをペアやグループ、全体の場で交流する活動を取り入れてきた。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合は、52％と、昨年度の55％を下回った。高学年は53％、中学年は38％、低学年は73％、と昨年度と比べ、微減している。しかし、各学年において、伝え合いカードなどの支援ツールの作成、普段から伝え合いを意識した学習展開を学校全体で取り組んでいる。また、伝え合い活動のゴールの子どもの姿を明確にすることも教職員間で連携を取りながら考えている。この結果を受け、数値が向上するように、教職員間で協議を重ね、授業や児童に還元できるようにしていきたい。

【取組内容③について】

「外国語（英語）の学習は好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合は80％と、目標の水準をやや下回っている。高学年81％、中学年82％、低学年78％と例年に比べ低学年の数値が低い。低学年のうちから外国語に対して苦手意識をもたせないよう、デジタル教科書を毎時間活用し、C-NET、日本語指導サポーターと連携した授業を進めていく。

【取組内容④について】

「一輪車や遊具を使って体を動かすことは楽しいですか」に対して最も肯定的に回答する児童が５９％だった。低学年に一輪車や遊具を使って体を動かしている児童が多い。中高学年が一輪車や遊具を使って体を動かせるような取り組みとして、運動委員会で「一輪車月間」を３学期に実施予定。

次年度への改善点

大阪市立難波元町小学校　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】 ・授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の５０％以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く〕 ・第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準１(時間外勤務時間が月 45 時間以内､1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下)を満たす教職員の割合を５０％以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向６　教育ＤＸﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝの推進】 心の天気を毎日入力できるよう時間の確保をしたり、学習者用端末を日々の授業で利用したりする。 指標： 令和７年度末の児童アンケートの「学校でタブレットを使っていますか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、９７％以上にする。	A
取組内容②【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の過重労働を抑制するために、ゆとりの日を週１回設けるとともに、業務分担の明確化を図る。 指標： 業務内容の改善、見直しを進めたり、ゆとりの日には勤務時間終了後速やかに退勤したりする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容①について】

- 授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、9 月までの累計は、83.3%だった。
- 令和７年度末の児童アンケートの「学校でタブレットを使っていますか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合は、99.1%だった。
- 教員の様々な工夫により、学習者用端末の活用日数が大幅に改善された。また、それに伴って児童の意識も変化しつつある。学習時間と休み時間の垣根を越えて活用する姿や、端末を使って新たな取り組みを学習や委員会活動で行う姿も増えてきた。しかし、多くの児童が「学習者用端末のルール」を守るっているが、一部で逸脱する姿も見られ始めた。そこで、現行の「学習者用端末のルール」を見直すとともに、再度校内で浸透させていく必要がある。

【取組内容②について】 ・　勤務時間終了後すぐ、とはいかないが、「ゆとりの日」に限らず、遅くまで残り業務を進める教職員の姿は減少している。 ・　４月より時間外勤務時間が月４５時間以内を満たす教職員の割合はほぼ１００％で推移している（１０月までの集計）。 ・　業務が主担当に集中しており、業務分担がなされていない現状も一部でみられる。
次年度への改善点